

ソ連引合原子力NSSS Componentsの件

昭和50年11月14日

日本原子力産業会議

1. 本件の経緯

- (1) ソ連では最近、原子力開発規模を拡大する方向で計画が進められ、この関係で海外からソ連の設計に基づく原子力発電プラント (PWR) 一次系 NSSS (Nuclear Steam Supply System) のコンポーネント (核燃料を除く) を調達することが検討され、その有力な対象として昨年末日本にも打診があつた。
- (2) その理由は、一昨年、土光敏夫氏 (当時原産副会長) を団長とする訪ソ原子力視察団により、日ソ間の原子力国際協力の途が拓かれ、また昨年ソ連からモロホフ国家原子力委員会第一副議長を団長とするミッションが来日し、日本の実情を視察して、わが国の技術・製造能力を高く評価したことによる。
- (3) 本件についての話し合いはソ連国家原子力委員会 (モロホフ第一副議長) ャトリヤノフスキー大使 - 土光経団連会長・有澤原産会長の線が進められた。